

国際学会①Pattern Languages of Programs Conference 2016 における “Pattern Concierge: Using Push and Pull Patterns to Help Clients Design Their Future” および②Portland Urban Architecture Research Laboratory Conference 2016 における” Project Design Patterns: Sharing the Practices in Successful Projects” の研究発表

総合政策学部 3年 森遥香

1. 活動日程・場所

10月21日～11月1日 ①Robert Allerton Park and Conference Center ②University of San Francisco

2. 活動の目的

- ① 本研究は、クライアントに適切なパターンを推薦し、共に未来への行動をデザインする「パターンコンシェルジュ」というコンセプトの提案をすることにより、新たなパターン・ランゲージの活用方法の確立を目的とした。今回、国際学会 PLoP でその概念と事例をまとめた論文「Pattern Concierge: Using Push and Pull Patterns to Help Clients Design Their Future」(Haruka Mori, Norihiko Kimura, Shuichiro Ando, Takashi Iba, Pattern Concierge: Using Push and Pull Patterns to Help Clients Design Their Future, *23rd Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP2016)*, Oct 2016)を筆頭著者として発表し、各国から参加するパターン・ランゲージの研究者より直接、向上・改善のためのフィードバックを得た。
- ② 本研究は、過去に成功したプロジェクトにおける振る舞いの知恵をパターン・ランゲージ化し、プロジェクト自体をデザインする提案を目的としている。今回、国際学会 PUARL でその概念をまとめた論文「Project Design Patterns: Sharing the Practices in Successful Projects」(Haruka Mori, Yuji Harashima, Tsuyoshi Ishida, Ayaka Yoshikawa, Takashi Iba, Project Design Patterns: Sharing the Practices in Successful Projects, *2016 International PUARL Conference (PUARL2016)*, Oct 2016)を筆頭著者として発表し、プロジェクトデザインのさらなる実践の支援を試みた。

3. 研究の成果

- ① パターン・ランゲージは、これまで主に読み物として共有され、読者は自分に合ったパターンを自力で探さなければならなかった。そこで、パターンコンシェルジュはクライアントの問題をとともに探り、適切なパターンを提案し、その後の行動もデザインすることにより、パターンの有用性を最大限に高める提案をした。

論文に整理する段階では、どうしたらコンシェルジュを実現させることができるのか、分析することにより、パターン・ランゲージの可能性について思考することができた。発

表では、パターン・ランゲージの研究者より対話形式で、論文内容について直接フィードバックを得たところ、その活用についてさらなる構想を話し合うことができ、論文によって創造の誘発をすることができた。

- ② パターン・ランゲージは、建築分野では良いデザインの言語化をすることによる住民参加の手法と発展してきた。今回は、良いデザインの言語化に加え、良いプロジェクトにおける実践の言語化をパターン・ランゲージの手法で行う提案した。

論文に整理する段階では、プロジェクトデザインパターンを作成したプロセスを分析したことにより、今後のプロジェクトを成功させるためのエッセンスを考えられた。また、発表では年内に書籍化される英語のプロジェクトデザインパターンについても興味を持っていただくことができた。さらには、PLoPにて開催したワークショップ”Pattern-Driven Idea Generation: Inventing New Supporting Systems for People with Dementia”において、認知症の人々を支援するアイデア発想をプロジェクトデザインパターンのカードを用いて促進し、さらなるパターンの活用を実践できた。



学会発表の様子

4. 今後の発展

- ① 今回の学会で発表した論文を、フィードバックを元に最終修正を行う。井庭研究会内でも引き続きパターンコンシェルジュという役割を継承し、適切なパターンの提案をする力を強化させていく。
- ② 今回の論文で取り上げたプロジェクトデザインパターンを年内に出版することを目指す。最終確認を完了させ、その後出版準備に入る予定である。また、アイデアの発想を支援するツールとして、その活用について研究を深めていく。

5. 謝辞

ご指導をいただいた井庭崇先生をはじめ、井庭研究室のメンバー、そして研究発表を行うにあたり助成金をいただいた湘南藤沢学会様にも心より御礼を申し上げます。